

# ネパール 海外事務所の活動

—事務所設立から1年半を迎えて—



結核研究所国際協力部

企画調査科 下谷 典代

## ネパールの結核対策と結核予防会

ネパールは、中国とインドの間に位置しエベレストをはじめとするヒマラヤ山脈や盆地地帯、低地地帯まである多様な地勢の国です。面積は14.7万㎡、人口2,933万人、5つの開発地域のもとに75の郡に100以上の民族が存在しています。

ネパールでは人口の45%が結核に感染しており、そのうち約8万人が結核を発病し、年間約4万以上の新規患者の登録があります<sup>\*1</sup>。過去1987～2005年の間には、3つのフェーズにより国際協力機構（JICA）によって結核対策プロジェクトが行われました。活動は主に国家結核対策の強化やDOTS戦略の導入、喀痰検査技術指導等が行われ、結核予防会は医師や検査技師等を派遣し技術支援をしてきました。

## ネパール事務所/JANTRAの設立・活動

JICAプロジェクト終了後ネパールの情勢が不安定な中、引き続き結核対策は進められていますが、未だ人口増加や地方季節労働者が多い都市部において高い有病率がみられます。この状況を踏まえ結核予防会は、非政府組織（Non Governmental Organization）としてJapan-Nepal Health & Tuberculosis Research Association (JANTRA)を2008年3月に首都カトマンズに設立しました。

対象はカトマンズ市内で半スラム人口が多い35区（人口約5万人）と10区（人口約3万人）地域で、JICAプロジェクト実施期間中に活発であったコミュニティ・ボランティア<sup>\*2</sup>の活動支援を中心に患者発見率や患者治癒率の向上を目指す試みです。活動は複十字シール募金で実施しています。

活動は、①クリニックでのDOTSサービスの提供、②アドボカシー活動を通じたコミュニティー・エンパワーメント、③カトマンズ市における結核対策の強化の3点が主です。

まずクリニックでは、これまで67名の結核と診断された患者の服薬支援をおこなうほか、コミュニティ・ボランティアを対象に結核や治療に関する知識向上トレーニングや、定期ミーティングを行って

います。7月からは顕微鏡センターを設置し、喀痰検査による患者発見率を上げるのに貢献していきます。また、トレーニングを受けたボランティアは25人にのぼり、地域内で結核の疑いのある住民を医療機関へ紹介し、結核に関する認識を高めるアドボカシーを行っています。そして、都市部における結核対策を改善するため関係機関と協議を行っています。この協議のためカトマンズ市内の他のクリニックの活動調査をし、国立結核センターや郡の公衆衛生局等と改善点を共有し都市部の結核対策ガイドライン作成に関わっていく方針です。

これまでのネパールの結核対策の成功には、コミュニティ・ボランティアの貢献が重要な要素の1つでした。ネパール事務所ではその特性に焦点を当て結核対策強化に貢献することを目指していきます。

\*1 Tuberculosis Control Programme Nepal, National Strategic Plan Implementation of Stop TB Strategy July2010-June2015, Ministry of Health & Population Government of Nepal

\*2コミュニティ・ボランティア：家族や本人が結核にかかった経験がある人や地域の人々を助けるため活動を行っているグループ。女性を中心とした活動が多い。



ネパール事務所は、事務所代表（中央）と会計スタッフ（左）、看護師2名（左から2人目と右から2人目）、キッチンスタッフ1名（右）の5名で活動を行っています